



学生数/約31000人  
 学部/文、経済、経営、法、社会、国際、国際観光、情報連携、ライフデザイン、理工、総合情報、生命科、食環境科  
 大学院/文学、社会学、法学、経営学、経済学、国際学、国際観光学、社会福祉学、ライフデザイン学、理工学、学際・融合科学、総合情報学、生命科学、食環境科学、情報連携学  
 THE世界大学ランキング2022/1201+位、同日本版2021/=77位、同インパクトランキング/401-600位

## 東洋大学キャリアオーナーズプログラム

**育成人材像** 高いキャリアリテラシーと、デジタル技術を活用して社会課題を解決する力を持つ人材

1年次	前期5月～7月(7回)	後期7月～1月(13回)
講義型授業(オンライン)	<b>キャリアオーナーシップ講座</b> 社会の変化をふまえた自主的なキャリア形成の土台づくり ▶キャリアオーナーシップについて学ぶ ▶リフレクションの重要性理解と手法の修得 ▶社会理解(SDGs, Society5.0など) ▶チームで課題解決(計画立案、プレゼン、実行、成果プレゼン)	<b>ビジネスコラボレーション講座</b> ビジネスプランの立案を通じビジネススキルを養成 ▶ビジネスフレームワーク理解 ▶チームで富士通Japanが出したSDGsの3、4、8の課題に対してDXで解決するビジネスプランを作成、プレゼン、事後評価
eラーニング教材	<b>Udemy for Business*1</b> 知識・スキルアップ 指定講座に加え、自主的に講座を受講し、DXに関連する知識やデータサイエンス、ビジネススキルを学ぶ ▶クリティカルシンキング ▶デザイン思考 ▶AI ▶プレゼン資料作成術 など	
リフレクション	自らの学びを言語化し、蓄積することで、今後のキャリア形成に生かす <b>dodaキャンパス*2を活用した振り返り</b>	

\*1 DXやビジネススキル等を学べるオンライン学習プラットフォーム \*2 学ぶと働くをつなぐ、大学生のキャリア支援サービス。大学生活での経験を記録し、自分の強みや価値観に気付く「キャリアノート」機能がある

### 学生に聞く!

#### 学部で教わったものづくりをビジネス化する視点を会得

情報連携学部1年 鈴木 優比さん



第一志望ではなかったこの大学で何をやるかをあらためて考え、「社会に出て生き抜くためのスキルを身に付けたい」と思い、受講しました。学部ではプログラミングによるものづくりを学びますが、それをビジネスに落とし込むスキルが学べたのがよかったと思っています。加えて、チーム学習を進める中で、自分の考えを人に伝えることの難しさに気づき、後期はリーダーシップを意識しました。情報連携学部に通っていますが、大学入学前はデジタル技術について豊富な知識があったわけではありません。デジタルスキルに関して、リーダーシップの取り方に関しても、eラーニングで学んだうえで実践に結びつけるのは、楽しかったですし、飽きることはありませんでした。学部の同級生にもここで学んだことを広めていきたいです。

#### ソーシャルビジネスに取り組む学生団体をつくりたい

文学部1年 栗飯原 大斗さん



将来のキャリアが漠然としており、社会で働くことのイメージがないため、このプログラムに挑戦しました。企業を相手にビジネスモデルを提案するためのアイデア出しからプレゼンまで、全てのプロセスが勉強になりました。文学部の学生であっても、社会に出たらデジタル技術と無関係ではられません。DXについて何も知らなかったら、社会に出たとき勝負にならないでしょう。チームではリーダーも務め、連日夜中までメンバーとプランを練り上げました。ゼロ単位の講座でもがんばることができたのは、シンプルに楽しかったから。今後は、このプログラムで得た自信と経験を生かして学生団体をつくり、ソーシャルビジネスに取り組んでいきたいです。

# Society5.0に向け自走するDX人材育成 →自律的学習者を育てるキャリアオーナーズプログラム

## 東洋大学

CASE STUDY

2021年度より、DX人材育成を目的とした「東洋大学キャリアオーナーズプログラム」をスタートさせた東洋大学。プログラムの狙い、めざすキャリア支援のあり方を聞く。



就職・キャリア支援課 課長

### 腰山 雅基

こしやまざもと ●1994年入職。通信教育、財務、教務を担当後、日本私立大学連盟への出向を経て、2006～16年まで3年生の就職・キャリア支援を担当。2018年より再び就職・キャリア支援を担当。1・2年生担当としてSociety5.0に向けた新しいキャリア支援を開発。

### 学生のキャリアの多様化とキャリア支援への疑問

ここ数年、学生の就業に対する意識の変化を感じます。「自分に合った働き方を優先したい」「夢を実現できる会社に行きたい」と話す学生が増え、就職先も小売業中心だったのが今は多様化しつつあります。中には起業する学生もいます。企業も変化しています。DX人材の獲得競争が激化し、新卒採用でもデジタルスキルが求められるようになりました。一方で、大学のキャリア支援は長らく変わらないままで、面接対策講座など、定形的なスキルを身に付けさせる就活支援ばかり。折しも2020年に策定された大学の中期計画では、「Society5.0に向けた就業意識の醸成」に取り組むことが決まりました。そこで私は、社会や企業の変化への対応と、

### 1年次、正課外完全オンラインの理由

目標は、学生がキャリア実現に向けて「自走」すること。そのため、1年生対象、正課外のオーナーズプログラムにしました。将来への関心が高い初年次に受講することで、その後の自発的な学びが期待でき、オンライン講座は学部、キャンパスを越えた学び合いを可能に

新しいキャリア観を持ち始めた学生のため、1年生対象のオーナーズプログラム「DX人材育成キャリア支援プログラム」を企画・開発したのです。

学生は1年かけて20回のオンライン講義とeラーニングにより、キャリアオーナーシップやDX、ビジネススキルを学修し、チームでDX時代の課題解決をテーマにしたビジネスプランを立案、企業から評価を受けます。身に付けてほしいのはSociety5.0に不可欠な「データを活用して課題を見いだす力」「試行錯誤を重ねて解決策に近づく力」です。加えて「変化を察知し、自らをアップデートし続ける力」も養成します。これはジョブチェンジやパラレルキャリアが当たり前になる時代において、必要な力になるからです。

するからです。多様で意欲的な者が同士が共に学べば、成長の相乗効果も生まれるでしょう。

初年度は全学部から79人の応募があり、やる気のみを基準に40人を選抜しました。コロナ禍で自分の中の当たり前が覆り、不確実な将来に向け今から準備しておきたいという意欲が高い学生ばかり。とはいえ、オンライン越しの人間関係構築やチーム運営にもがき苦しむ、ビジネスプランに対して企業から厳しい評価も受けました。が、受講後のアンケートでは「挑戦に対する怖さが減った」「考える視点が圧倒的に増えた」「起業の学生団体をつくりたい」などの声が寄せられ、eラーニングの視聴データを見ても、単位の出ない講座を主体的に学んでいました。自走化のためには手のかけすぎは厳禁です。2年次の講座は用意していません。各自が自らの強みや課題を自覚し、それらを伸ばすために必要な活動に取り組むことを期待しています。次年度になれば、1期生が2期生のサポートをしてくれることでしょう。1期、2期と続く縦のつながりは、卒業後も役に立つはず。就職・キャリア支援課がなくても、自分でキャリアを築けるようになることがキャリア支援の理想です。

取材・文/本間学 撮影/亀井宏昭